

市民マラソンが地域住民に与える影響についての研究

Effect of city marathon gives a resident of a city

1K05B190

指導教員

主査 木村和彦先生

早川 達哉

副査 磯繁雄先生

[緒言]

近年、スポーツを通じて地域活性化やイメージアップを図ろうとする地方や地域が増えているが、これまでのスポーツイベントに関する研究は、イベントに対する期待や満足度、リピータ特性などイベント参加者を対象にしたものや、ボランティアの継続要因を研究したもの、スポーツ観戦者の観戦動機や満足度を研究したものなど、多くの研究がイベントに直接かかわる人々を対象としたものであり、イベント開催地に居住する人々の視点に立ったイベント評価はほとんどなされていない。スポーツイベントを成功させ、地域活性化を計るには、イベント内容を充実させ、イベント参加者や、ボランティアの満足度を高めるなど内的要因と同時に、環境に対する対策やイベント開催地の住民の評価など外的要因も考慮しなければならず、イベント開催地住民の理解や協力が必要不可欠である。

本研究の目的は、スポーツイベントの一つである市民マラソン大会に焦点をあて、その開催を開催地の住民はどのように評価しているのか、スポーツイベントが地域住民に対してどのような影響を与えているのかということに対して、特に地域活性化という視点から明らかにすることである。

[研究方法]

スポーツイベントが地域社会にもたらす効果として、先行研究を参考に、1)住民意識の高揚、2)地域活性化、3)イメージ作り、4)スポーツ振興の4要因について8つの質問項目を作り、「大変そう思う」から「まったくそう思わない」の5段階で測定

し、評価順に5から1までの得点を与えて数量化した。この評価スコアについて、まず全体の傾向を把握するために平均値を算出した。次に個人的属性、日常のスポーツ参加状況、過去における世田谷 246 ハーフマラソンの参加状況を独立変数として、大会評価の平均スコアを求め、それぞれの変数において t 検定による平均値の差の検定を行った。対象としたスポーツイベントは2008年11月9日(日)に開催された世田谷 246 ハーフマラソンであり、開催前日に調査員が任意にコース上の近隣住民の方に質問紙と返信用封筒を配布し、郵送法で回収した。配布数は500、回収数は146、回収率は29.2%であった。

[結果および考察]

世田谷区の住民は「世田谷 246 ハーフマラソン」を子どものスポーツや地域スポーツ振興に良い影響を与え、世田谷区の町の宣伝、イメージアップに繋がっていると評価している。しかしながら、世田谷 246 ハーフマラソンのためにお互いが協力し、この大会が、町の活性化に繋がっていると現時点では評価していない。また地域経済の振興にも寄与していないと考えているようである。またランナーやボランティアとして大会に直接参加するよりも沿道に出てランナーを応援する間接的な参加が多く、沿道に出てランナーを応援したことがある者は、ない者に比べ、すべての項目において高い評価を示していた。t検定においても6つの項目で有意差が見られた。同様にスポーツ実施者と非実施者の大会評価を比べた場合、すべての項目においてスポーツ実施者が高い評価

を示した。t検定においても「スポーツ振興」の項目で有意差が認められた。年齢や居住年によって大会評価に差があるという仮説を立てたが、本研究では大きな違いは見られなかった。自由記述では大会に対する今後の期待を示す回答が多数、寄せられた。

ランナーやボランティアのように直接大会に関わることで、住民意識の向上や相互協力、地域

活性化につながる可能性があるが、本調査対象者には、ランナー、ボランティア、役員として大会に直接関わった者が極めて少なかった。地域活性化のためには、今後、多くの住民が直接イベントに参加できるよう、大会主催者側が積極的にプロモーションを仕掛け、参加しやすいイベントを作り出していく必要がある。